

「アワビ緊急増殖技術開発研究」の概要

これまでの知見

《事業規模の種苗生産》

・飼育管理が簡便な、親貝1個体から1回のみ採卵して生産する慣行法が主流。

再成熟による採卵法が普及せず

《近年得られた知見》

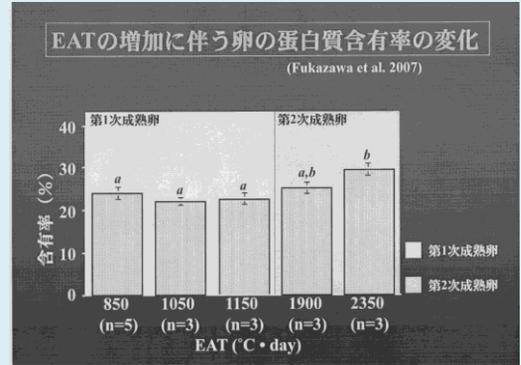
・一度採卵した親貝を1カ月程度の期間をおいて再成熟させ採卵すると、脂質や蛋白質の含量が多く、稚貝までの生残率が高い良質卵が得られる。



アワビの幼生



アワビ成貝



注) EAT:成熟有効積算温度

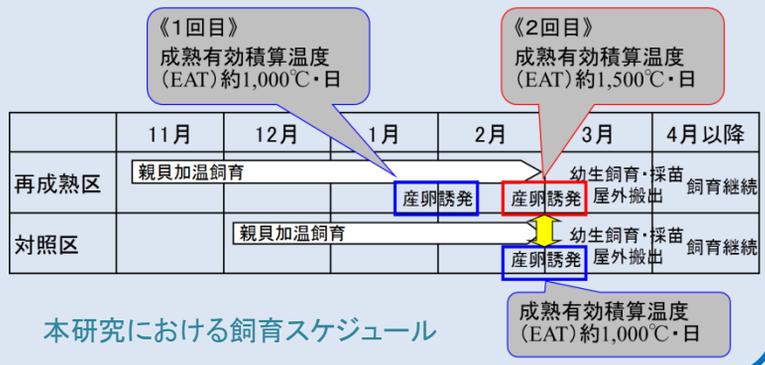
現状と課題

- ・被災地では、津波によりアワビ稚貝が被害(2010年生まれ天然アワビが壊滅状態)
- ・同時に、アワビの種苗生産施設が全壊し、2011年の種苗放流も実施できず
- 一刻も早く種苗生産・放流を再開し、アワビ資源を維持する必要
- アワビ種苗生産施設の復旧には時間が必要。当面は、応急復旧した小規模施設で効率的に種苗生産を行う必要あり。

取り組む内容

再成熟技術を導入した実証規模での種苗生産試験を実施

- ⇒少ない親貝から良質卵を確保し、稚貝までの生残率を高めることにより、大量の親貝・採苗規模を用いる従来の種苗生産方法と同等の種苗生産量を確保。
- ⇒本方法のコスト分析を行い、経営改善効果を試算。
- ⇒開放型実験機能の整備を開始し、情報を発信。



本研究における飼育スケジュール

実施状況

- ・再成熟技術を用いた種苗生産試験を開始。再成熟法によって2回の採卵を行い慣行法と同等の採卵成績を得たが、細菌性疾病の感染もあり、これを踏まえた次年度計画を検討中。
- ・生産コスト評価に係る情報収集を開始した他、開放型実験室の施設整備に着手。

期待される成果

被災地におけるアワビ資源の速やかな回復
効率的なアワビ種苗生産法の開発・普及